

社会人のための情報システム誌  
— 経営近代化のシステム研究 —

# Computer Report 5

目 次

2011 No.680

## 3 はじめの言葉

## 4 想定外を繰り返す責任者たちと受け入れる側の国民の文化

田原文夫

ホリエモンなる愛称(?)を持った若者が使った「想定内の範囲内」が有名になったことがある。しかし、福島第一原発の被害については、本来、事態の最高責任者と目される専門家から連発されているのは「想定外」という台詞である。何度繰り返されようと、年齢的にも、経験的にも、役職的にも、担当する事業分野における当該責任を逃れることはできそうにない。「想定外」は決して免罪符ではないからだ。この非常時にあって、端から責任逃れとも取れる言質にさらされるほどの寂しさはない。これこそ、今の我が国、リーダー不在の証である。リーダーでもあるエリートとは、いざ、という時に、身を捨て、国の危機に力を発揮する人のことだ。真のエリート養成は、喫緊の課題だ。有名大学に入ったとか、有名企業の社員だとか、中央官庁に勤めているなどをもってエリートと呼ぶのは、あまりにもバカげたことだ。今回の「想定外」発言で、これは嫌というほど確認された。先月号でも指摘したことだが、責任逃れの一環か、意図的に真実をねじ曲げた情報発信はいまだに繰り返されている。発信側による「完全な情報操作」である。しかし、伝えられる側の国民にも、ガバナビリティ(被統治能力)に関わる、我が国特有の文化がある。しかも、その文化に対する意識がない。

## 10 情報社会を考える その8

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

時の政権が批判非難のまとなるのは世の常としても、福島第一原発事故に関する情報発信行為で国民から怒りの声が随分と上がっているようだ。しかも信頼失墜という形で表面化する気配である。これを政府はどう修復していくのだろうか。未曾有の大災害、大事故であることから一応の評価をする声もある。とは言え、できていることは当たり前、できていないこと、新たに派生してしまった問題も多い。中でも信頼失墜の引き金になっているのは、事実を国民に伝える努力が今一步であることだ。まず指摘できるのは、事実を小出しに伝える姿勢である。今や情報社会である。国民は様々な形で情報を入手できる。妙な小細工は無用どころか、不信のタネとなり、隠蔽が疑われるもととなる。政府も早く

このことに気付くべきである。一方、長い記者クラブ制度に胡座をかき、発表情報を垂れ流すだけの大手マスコミにも批判の目が注がれてきている。真実を伝えないマスメディアの姿が浮き彫りになったからだろう。風評被害に泣き寝入りしない強い姿勢も出てきた。情報社会に向けての確かな一歩である。情報社会にあって我々はどうか、どう関与し、どう貢献していくべきか、そしてどう行動していくべきか。前進あるのみ。

## 1 4 日本再生／世界競争力回復のカギ

### 何故 M-BIM 構築が必要か その3

水田 浩

#### コンパクトシティ建設が日本を救う

社会が大きく変わる時がある。今がその時にならうとしている。それは国の復興である。傷ついた国民、国土、信頼、経済を、国民が一丸となって復興する時である。この復興は全く新しい情報社会を創ることになる。その中核となるのが、待ったなしのコンパクトシティの創造である。被災国民によるコンパクトシティの創造が、世界モデルとなり、東日本大震災による被害総額約25兆円の復興の資金となる。

## 1 9 新連載 アーキテクチャ論 (1)

### アーキテクチャとは

山本修一郎

本連載の目標

情報システムでは、大規模化、複雑化、オープン化、サービス化、クラウド化が進展している。このように情報システムを開発、保守、運用する上でアーキテクチャの重要性が増している。本連載では、ソフトウェアアーキテクチャを中心にして基本概念を整理するとともに、技術、方法論の動向を紹介していく。また、The Open Group による TOGAF (The Open Group Architecture Framework) やOMG によるSysML (The System Modeling Language)をはじめ、エンタープライズアーキテクチャやシステムアーキテクチャ、さらには組織アーキテクチャなどについても幅広く紹介していく予定である。まず今回は、このような観点から、

- ① なぜ、アーキテクチャを記述する必要があるのか、アーキテクチャによってどんな問題を解決できるか
- ② アーキテクチャを記述することによって、どのような結果をもたらすことができるか
- ③ アーキテクチャの記述が、期待した結果をもたらすために、どのようなことに留意する必要があるのか、などについて解説する。

## 2 7 スマートフォンの普及と通信断絶、そして

### 我が国のビジネスコンテンジェンシープランの実力

aism

3月11日の東北関東大震災では、実に多くの犠牲者が出ている。行方不明者の数も確定していないほどだ。改めて犠牲者の皆様の冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げたい。直接的被災でないにしても、その影響を受けていない人はいないと言えるほど、今回の震災で日本人の受けた打撃は大きい。それは地震による家屋、

施設、交通機関の倒壊だけでなく、巨大津波によって電力／ガス／水道のライフライン、オフィス／工場／農地／港など、あらゆる生産ラインが、根こそぎ倒壊したこと、そして追い打ちをかけた格好での福島第一原発事故。あらゆる面でセキュリティ対策とは何かという問題が大きくのしかかってきている。これまで多くの企業で取り組んできたビジネスコンテンジェンシープラン（BCP）をはじめとするセキュリティ対策を見直してみる必要があるだろう。aism としても、様々な角度から取り組んでいかななくてはいけないテーマ／課題だと認識している次第である。先月号でAndroid について、携帯各社の戦略に触れながら、その動向について紹介させていただいた。携帯電話におけるAndroid 自体が持つ課題、Android が搭載されることにより、我々利用者が享受できるサービスには、どのようなものがあるだろうか。携帯電話の動向に詳しいaism 会員から報告があったので、今回はそれをベースに、今現在提供されているもの、将来的に期待されるものを含めて、報告させていただくこととする。aism 会員間の議論でも、携帯電話を電話機の延長で捉えることが多かった我々だったが、ネットワーク端末という形で位置づけから、発想の違いというか、当方の発想の乏しさを思い知らされる内容で、議論はなかなか尽きそうにない。そして最後に、震災後初めて開催されたaism オフ会での談義も報告させていただくことにした。能書きはこのくらいにして、まずは読み進んでいただきたいと思う。

### 3 5 人材紹介業界の秘話と悲話

#### 蔓延するモラルハザードの中から

Dr. ベスト

#### 第八話 「同類、相哀れむ」「同じ穴の貉」

鶏が先か、卵が先か。原因、要因、理由が不明なことは結構ある。冷たい風を吹き付けられれば、旅人は上着を押さえる。ぽかぽかと暖かな日差しを届けられれば、自然に上着を脱ぐ。人と人との織りなすやり取りともなれば、なおさらである。単なる「作用反作用」だけで解釈できないものがある。求める人材がいらない病は、IT 産業始まって以来の万年病だが、一向に治まる気配がない。どこまで病むことになるのか。

IPA「IT 人材白書 2011」を公表

### 3 9 続インテリジェンスへのいざない ⑰

#### 情報発信元／マスコミにまで拡がった

#### リーダー不在の悲劇

今井 武

東北関東大地震、巨大津波、福島第一原発による放射能洩れ事故に関する情報開示について、その基本的部分で問題点があることを指摘した。とうとうその問題点は、情報を伝えられる一般国民の大不信という形で表面化してきた。しかも、情報発信大本営の総理官邸、原子力安全・保安院、原子力委員会、東京電力だけでなく、それを伝えるマスコミメディアにまで、不信の念は拡大されてきている。その一方で、改めて一般国民が求めている事実データ、そして解決策の提起に通じる指導力（リーダーシップ）のあるインテリジェンス情報とは何か問われている。特に、その場限りの思いつきや利根的な言い訳で納得するものではないことを、国民は確認しようとしている。「エダる」という新造語を産んだ官房長官は、風評チェーンメールの発信に注意を促したが、自らの目で問題点を指摘することなく「大本営発表」を垂れ流すマスコミへの不信感が高まっていることに注目だ。

「垂れ流しマスコミは風評チェーンメールと同質だ」という指摘も出てきている。マスコミ界にもリーダー不在の悲劇は及んでいるようだ。

### 4.3 IT新時代とパラダイム・シフト

#### 第20回 大震災後の電力再生に

##### スマートグリッドの導入を 根本忠明

効果的な節電対策としての取り組みも配慮もなく強行された東京電力の「計画停電」は、実に様々な問題を露呈した。結果からみると、目的とされる「大停電回避」への理解よりも、愚かさだけが浮き彫りになったようだ。影響というより、迷惑だけを痛感させられた国民の間には、強烈に電力供給システムの抜本的見直しを求める声が高まっている。欧米先進国を中心に進められているスマートグリッド体制の創出にはもってこいの状況、環境が整ったと考えるべきだろう。我が国の電力供給体制の見直しは、これまでも何度か試みられたことがあるが、都度、事業独占をしている電力会社の反対で流れてきた。改善も改革も後回しにされてきた積年のツケが、無謀な計画停電の強行となって表現されたと言えるかもしれない。スマートグリッド導入の好機になることを切望したい。

### 4.7 一味違うウェブ検索

#### 第十話 震災報道で信頼できる情報を獲得するには ぐうのうえぶへい

今回の震災報道で我々は、既存の大手マスメディアをはじめ情報発信源の多くに、情報操作／情報隠しの疑惑を抱かざるを得なかった。改めて情報内容や情報源のチェックの大切さを、実感させられた。このような震災報道の中から、信頼できる情報を獲得する方法を探してみたい。

### 4.9 連載 ことわざ笑タイム

すぎやまチヒロ

お知らせ

求む！ ヒーローズクラブ入会希望者

「We are the HEROes」

ヒーローになろう

日本、世界中に漂う閉塞感を打破するために何が必要か

思い切り自由に、大胆になって、元気が出るクラブ

詳しくは

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

まで

## セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における  
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで  
株式会社 日本経営科学研究所  
ComputerReport編集部

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

# CR 選書のご案内

**CR選書**

**改訂版**  
**データ・ウェアハウス**

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 289頁

石井 義興 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの構造と	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネステッド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**実践データ・ウェアハウス OLAP**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

**消費者行動論**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁

田原文夫 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

aism 研究活動報告  
**インターネットセキュリティの落とし穴**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修  
aism情報セキュリティ・マシントリプル研究会 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記
第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 匿名化された電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネットワークのための情報オーナーの課題
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2011年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

エンタープライズ情報システム設計の基本書！  
**トップ主導の情報システム革新**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁

高田 顯重 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**計量モデルの構造と解法**  
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 213頁

安田 聖 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

**『いざ！というときの得広報』**  
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 228頁

加藤 洋一 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売定文化企業体質
■ ニュースリリースは東方向選定	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**ザ・ワールドリンク**  
がんばれ、国際グローバルサーバー—  
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 発端	第十一章 日本開港手帳の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米軍チーム撤退の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たなメンバー
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米軍事務所移転と新たな悩み
第五章 FJO、IBM競争	第十五章 開港フル稼働とJ/Nシステム
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番稼働日誌
第八章 米軍チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働その一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米軍チーム、異なる三人組	第二十章 稼働その二 安定稼働と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)